

# モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2018 受賞者決定

一般社団法人カーフリーデージャパンでは、移動に関する様々な問題を考える機会を市民へ提供し、新しい都市交通政策の展開を進展させることを目的に、「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード」を設け、毎年、まちづくり貢献賞、イベント・プロジェクト賞、市民向けアピール賞、カーフリーデーベストショット賞を各都市へ授与しています。

この度、「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード 2018」におきまして、以下の通り決定致しましたので、ここに発表いたします。

## モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2018の概要

---

### 目的

- 各団体が行うモビリティウィーク&カーフリーデーについての取組を讃えます
- 各団体の取組の評価を行うことで、今後の取組への更なる意欲昂進に期待します
- 日本におけるモビリティウィーク&カーフリーデーの質的向上をねらいます
- 他団体や一般市民の関心を集める機会とします

### 審査委員

- 委員長 太田勝敏（東京大学名誉教授）  
委員 上岡直見（環境自治体会議 環境政策研究所）  
委員 望月真一（EMW日本担当コーディネーター）



## 審査結果

---

### 授賞団体

1. まちづくり貢献賞  
**モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会**
2. イベント・プロジェクト賞  
**さいたまカーフリーデー実行委員会**
3. 市民向けアピール賞  
**京都カーフリーデー実行委員会**
4. カーフリーデーベストショット賞  
**4作品（さいたま市、横浜市、奈良市、那覇市より各1作品）**

※「モビリティウィーク&カーフリーデー日本アワード2018」審査会は、平成30年12月10日、一般社団法人カーフリーデージャパンにて行われました。

# 1. まちづくり貢献賞

## モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会

### 授賞理由：

モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会は、奈良市（環境政策課）を事務局とし、地域の官民の諸団体で構成され、今年初参加を果たした。

奈良市では、持続可能な社会への転換を目指す総合的な政策展開や、市の将来的な目標である、世界遺産エリアへのマイカー流入規制の実現にむけた啓発活動として、モビリティウィークが導入され、カーフリーデーは「奈良は車で来ない方が楽しい」、「車に乗らない方が暮らしやすい」を市民に体感してもらうことを目的としている。

今年は、実行委員会の立上げに始まり、庁内、地元・関係機関との調整、市民への事前PR（公式サイト開設等）まで多大な時間と労力を要したと思われるが、実施条件である①モビリティウィーク一週間の実施、③カーフリーデーの実施（カーフリーエリアの創出）、の2つを初年度から実現したことが、第一に評価された。

カーフリーデー当日は、市長のあいさつ、交通規制宣言によって、駅前の三条通りの一部がカーフリーとなり、多くの市民や観光客が、快適な歩行や買い物を楽しんだ。そこでは、啓発活動と合わせて、奈良のまちを楽しむための移動手段に関するアンケートや普段の交通行動等を問うカーフリーデーアンケートが実施され、市民の意向を把握する貴重な機会となった。

また、イベント会場（JR奈良駅東口駅前広場）では、十数の出展団体により、「COOL CHOICE」の普及啓発、地域資産のPR（地産地消の農産物等や史跡巡りのウォーキング、サイクリング）、シェアバイクの試乗など、環境、交通、まちづくりの啓発が実践された。特に、オープンワークショップ「～あなたの住みたい“奈良”を描いてください～」では、市民や観光客と一緒に、意見・アイデアを出しあい、奈良のまちを交通の視点でどのようなカタチにしていきたいかビジュアル化し、行政と市民が共有する機会となった。

さらには、インバウンド対策として、当日用のパンフレットを4カ国語対応とするなど、外国人観光客へのPR、参加につながった。

以上の通り、市の目指す持続可能なまちづくりについて市民へ積極的なアピールが行われ、今後、交通部署との連携や交通政策との連動が期待されるとして、「まちづくり貢献賞」に値するとした。

### ★他応募団体：3団体

(NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会、カーフリーデーふくい実行委員会、京都カーフリーデー実行委員会)

### 講評：

3団体とも今年進展がみられたが、今後さらなる政策展開が期待されるモビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会を選定した。

NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会は、市民団体として、開始から15年間変わらず、大規模なイベントを実施し、事前に小学校へ4万枚もチラシを配布していること、さらに、今年は、地域資産である三溪園や横浜市市電保存館と連携し、カーフリーデー当日にこどもの入園料を無料とするなど地域への連携を拡大したことが評価された。

カーフリーデーふくい実行委員会は、今年も継続的に、カーフリーデー（1日）、モビリティウィーク（1週間）、モビリティマンス（1か月）と持続可能な交通まちづくりの啓発に貢献したことが評価された。今年は、団体が目指す「ホジロバ交通（歩行者・自転車・路面電車・バス交通）」の企画の充実がみられたが、天候の影響もあり、参加者が多く得られなかったのが残念であり、次年度に期待したい。

京都カーフリーデー実行委員会は、別途記載の通り、地域・市民へのカーフリーデーの認知度の向上に貢献したとして、「市民アピール賞」に選定したため、対象外とした。

## 2. イベント・プロジェクト賞

### さいたまカーフリーデー実行委員会

#### 授賞理由：

さいたま市では、自動車に過度に依存しない交通体系の実現に向けた取り組みの一環として、「さいたま市総合都市交通体系マスタープラン基本計画」に基づき、今年で12回目となるカーフリーデーを実施した。

今年は、「ひとつじゃない！快適な移動手段で“さあでかけよう”」のテーマの下、例年同様、カーフリーデーイベントを2日間行い、過去最多の約3.5万人の来場となった。

通行止めとなった大宮駅西口周辺道路では、オープンカフェが設置され、人々がゆっくり憩い、クルマのない道路・都市空間を楽しむ一方、数々のブースでは、行政、地元企業、商店会、NPO、大学等が連携し、まちづくり、環境、交通の様々なとりくみが紹介され、持続可能な交通まちづくりについて考える機会が創出された。会場の一部である県道大宮停車場大成線では、昨年のカーフリーデーで、コミュニティ道路整備についての展示・紹介や整備形態のアンケートが行われたが、今年は、「大宮駅西口をもっと賑やかにすることを考えた停車場線のデザイン」の展示が行われ、カーフリーデーの活用に進展がみられた。

また、こどもたちの学びの場の提供にも一層力が入り、昨年より開始した「ノーマライゼーション・アート・コミュニティ（アートを通じて大宮地域で活動する子どもや大人の日頃の活動の成果を発表・展示）」によるお絵かき体験や民族楽器の演奏体験、例年実施の小学生の職業体験や、近隣小学校の吹奏楽部のステージ出演などが行われた。

モビリティウィーク全体としては、カーフリーデーのほか、例年通り、マイカー通勤を控えてもらう「ノーマイカーデー」や「バスの日」が実施された。

こうした長年の取り組みに対する市民の反応については、毎年実施されるカーフリーデーアンケートからもうかがえ、カーフリーデーの認知度が例年約7割と全国の中でも高い。

以上より、「イベント・プロジェクト賞」にふさわしいと評価した。

★他応募団体：3団体（NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会、京都カーフリーデー実行委員会、モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会）

#### 講評：

NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会は、実施目的である、①大気汚染の問題を認識する、②人や自転車の空間を優先する、③公共交通の推進・強化、④地域の資産を再認識するにおいて、例年通り、多くの参加団体により実践され、今年は特に④において、三溪園や市電保存館とのコラボの進展があったが、今年過去最高の来場者があった、さいたまカーフリーデー実行委員会を選定した。

京都カーフリーデー実行委員会とモビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会については、別途記載の通り、それぞれ、「市民アピール賞」、「まちづくり貢献賞」に該当するため、対象外とした。

### 3. 市民アピール賞

#### 京都カーフリーデー実行委員会

#### 授賞理由：

京都カーフリーデー実行委員会（市民団体）は、今年で参加6年目を迎える。

例年、地元企業・団体、NPO、大学、行政と様々な団体と連携しているが、今年は協力関係が強化され、カーフリーデー1日だけでなく、3日間にわたり取組みが展開され、カーフリーデーの認知度の向上に大変貢献したとし、「市民アピール賞」に選定した。

第一に、来年のIPCC 総会京都市開催を記念として、はじめて市の地球温暖化対策室と連携し、交通や気候変動対策を含めた総合的な都市づくりについて市民と考えるトークイベントを開催した。（京都宣言発信リレー事業）

第二に、カーフリーデーでは、府内全バス事業者が参加したり、今年開始のシェアサイクル「PIPPA」が出展し、市内3箇所にて臨時ポートを開設してもらい、「シェアサイクル」の利用体験の機会を創出するなど、市内で利用できる環境にやさしい移動手段を広く市民へ啓発した。また、今年のテーマである「移動の多様性」を実際に体験してもらうモニターツアー企画も実施された。生活スタイルの異なる市民がひとつのチームになり、できるだけ、多様な交通手段を利用して市内を移動し、それを記録するというもので、市民にとっての利便性や快適性、課題などを共有する機会を提供した。

第三に、今年も継続的に、大学生を主な対象とした「きょうと学生自転車安全利用講習会」を実施し、自転車利用のルールとマナー向上に貢献した。（「京都府自転車安全利用推進員制度」委託講習）

最後に、今年は、共催団体である「二条駅地域安全ネットワーク」を通じ、JR西日本二条駅が初出展し、京都府医師会の協力が得られ、従来の二条駅西口のみでの開催から東西口での開催に会場が拡張され、多くの市民にPRできた。また、今年も市交通局の協力により、地下鉄各駅でのポスター・チラシ掲示が実施され、広報効果も大変大きかった。

以上の通り、カーフリーデーが、年々、地域・市民へ浸透してきていることを称えたい。

★他応募団体：3団体（NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会、カーフリーデーふくい実行委員会、モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会）

#### 講評：

NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会は、例年通り、こどもたちへの普及啓発に注力し、教育委員会を通じた近隣6区の小学校へのチラシ配布（4万枚）や、市営地下鉄・市営バス等の公共交通機関でのポスター掲示を行い、今年新たに、三溪園や市電保存館との連携し、訪れたこどもたちにもチラシが配布されるなど広がりもみられ、精力的な活動が評価された。

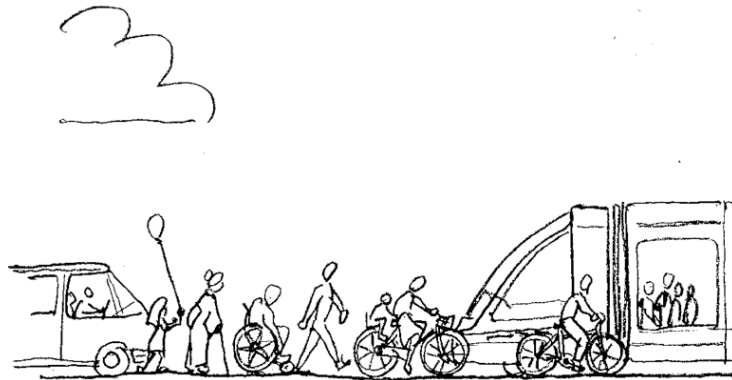
カーフリーデーふくい実行委員会は、今年は、昨年よりも多くチラシ配布したことや、幼児向けのイベントを充実させて、こどもと一緒に参加する親・祖父母へアピールを強化させたことが評価された。具体的には、昨年人気のあった、キッズバイク、バスの乗り方教室、パノラマビジョン紙芝居を継続したこと、とくにキッズバイクについては、2つの大学の研究室で合同実施、同時にキッズ向けに信号や交通標識などを学びながらやってもらえるような内容に改善を試みたことから、昨年よりも多くの参加が得られたことが評価された。

モビリティウィーク&カーフリーデーなら実行委員会については、別途記載の通り、「まちづくり貢献賞」に該当するため、対象外とした。

## 4. カーフリーデーベストショット賞

この賞は、各団体が今後の取組を展開するにあたり、広報活動において役立てもらうことと、カーフリーデーに参加する一般市民に楽しんでいただくことの両方を意図して設けました。

今年も、各参加団体より沢山の応募がありました。応募写真は計21枚。それぞれ特徴のあるカーフリーデーらしい風景が集まりました。選考の結果、以下の4枚に決定いたしました。



Sketch by Mochizuki Shinichi

### 授賞者

---

#### ①さいたま市

「道路でアートを楽しもう！」 / さいたまカーフリーデー実行委員会

#### ②横浜市

「ミニバスストップ 大人気！」 / NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会

#### ③奈良市

「モビリティウィーク&カーフリーデーなら」始まります！」 / 奈良市

#### ④那覇市

「公共交通ぬりえ&クイズコーナー大盛況です！」 / 宮平 知幸さん



## さいたまカーフリーデー 2018

「道路でアートを楽しもう!」：さいたまカーフリーデー実行委員会

大宮駅付近の通行止めにした道路上において、今年度から同日開催している「ノーマライゼーション・アート・コミュニティ実行委員会」が子供の遊び場を設置し、みんなんでアートを楽しんでいる様子です。



## 横浜カーフリーデー&モビリティウィーク2018

「ミニバストップ 大人気!」：NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会

いつもと違った小さなバス停のめずらしい光景に、皆が喜んで並んでいました。







## モビリティウィーク&カーフリーデーなら2018

「モビリティウィーク&カーフリーデーなら」が始まります! : 奈良市

開会式では、実行委員会会長による趣旨説明にはじまり、市長あいさつ及び市長の交通規制開始宣言によって、カーフリーゾーンが創出されました! イベント参加者は車のない空間で奈良の魅力を再発見しました!



## なはモビリティウィーク&カーフリーデー2018

「公共交通ぬりえ&クイズコーナー大盛況です!」: 宮平 知幸さん

お子様がぬりえやクイズで楽しみながら、公共交通に触れている間、お父さん・お母さんにはCFDアンケート等で交通への意識を深めてもらいました。

